

# 留守名簿

## 関東軍防疫給水部

全2冊 (全2回配本)

●編・解説——西山勝夫 (滋賀医科大学名誉教授)

●揃定価——(揃本体 36,000円+税)

●原簿名——「関東軍防疫給水部 満洲第六五九部隊 留守名簿」  
(昭和二十年一月一日、関東軍防疫給水部)

●体裁——A4判・上製・函入・総約800頁 (各約400頁)

●配本——第1回配本 第1冊 (2018年8月刊行)

定価 (本体18,000円+税)

ISBN 978-4-8350-8251-6

第2回配本 第2冊 (2018年11月予定)

定価 (本体18,000円+税)

ISBN 978-4-8350-8252-3

『十五年戦争陸軍留守名簿資料集』② 以降も順次刊行!

②『留守名簿 関東軍防疫給水部 復七名簿』

全2冊 (19年2月刊行予定)

③『留守名簿 北支那防疫給水部』

全1冊 (19年5月刊行予定)

④『留守名簿 南方軍防疫給水部』

全1冊 (19年8月刊行予定)

⑤『留守名簿 関東軍軍馬防疫廠』

全1冊 (19年11月刊行予定)

※定価等は未定。

### 関連図書のご案内

●十五年戦争極秘資料集 補巻23  
陸軍軍医学校防疫研究報告  
全8冊・別冊1

七三一部隊をはじめとする、陸軍による医療研究やその理論的背景を知る基礎資料!

石井四郎が主幹を務める陸軍軍医学校防疫学教室発行の『陸軍軍医学校防疫研究報告 第二部』(昭和十四年十二月、昭和十九年八月)によって、一九四一年から四年にかけて行われた実験と研究の実態が明らかに。

●揃定価……本体161,000円+税

●体裁……B4判・上製・函入・四面付・

総約3,400頁

●収録内容……第1、900号(8、18、19、95、116、124、

191、193、321、351、364、481、701、800は欠

●別冊……解説(常石敬一)・総目次+付録

●推薦……常石敬一・内藤裕史・西山勝夫・

松村高夫・吉見義明

●十五年戦争極秘資料集 補巻47

総力戦研究所関係資料集  
全9冊・別冊1

アジア・太平洋戦争という本格的な総力戦は、いかにして遂行されたのか?

本資料集は内閣総理大臣管轄下の研究機関・総力戦研究所が残した調査研究、訓練活動、教務日誌など、「総力戦」の実態を明らかにするために不可欠な資料群。

●揃定価……本体153,000円+税

●体裁……A4判・上製・総約3,600頁

●別冊……解説(粟屋憲太郎・中村陵)・総目次

●推薦……額頼厚・安達宏昭

2018年2月、ついに配本完結!

七三一部隊名簿の全貌が、ついに明らかに!

# 留守名簿

## 関東軍防疫給水部

全2冊  
(全2回配本)

中国において細菌戦、人体実験を試み、七三一部隊と通称された関東軍防疫給水部満洲第六五九部隊。森村誠一が『悪魔の飽食』で「厚生省が保管」と紹介した幻の名簿が、国立公文書館との数年にわたる折衝の末、ついに公開。各部隊、隊員の戦後の復員までの実態を伝える貴重資料として、「関東軍防疫給水部」の「留守名簿」から、『十五年戦争陸軍留守名簿資料集』として順次復刻する。その第1回として『留守名簿 関東軍防疫給水部』全2冊を刊行する。二〇〇四年弊社刊行の『陸軍軍医学校防疫研究報告』全8冊・別冊1に続く、戦争犯罪解明のための第一級資料、待望の復刻!

十五年戦争 陸軍留守名簿資料集①

●編・解説——西山勝夫 (滋賀医科大学名誉教授)

●揃定価——(揃本体 36,000円+税)

●原簿名——「関東軍防疫給水部 満洲第六五九部隊 留守名簿」  
(昭和二十年一月一日、関東軍防疫給水部)

●体裁——A4判・上製・函入・総約800頁 (各約400頁)

●配本——第1回配本 第1冊 (2018年8月刊行) 定価(本体18,000円+税)

ISBN 978-4-8350-8251-6

第2回配本 第2冊 (2018年11月予定) 定価(本体18,000円+税)

ISBN 978-4-8350-8252-3

『十五年戦争陸軍留守名簿資料集』② 以降も順次刊行!

②『留守名簿 関東軍防疫給水部 復七名簿』全2冊 (19年2月刊行予定)

③『留守名簿 北支那防疫給水部』全1冊 (19年5月刊行予定)

④『留守名簿 南方軍防疫給水部』全1冊 (19年8月刊行予定)

⑤『留守名簿 関東軍軍馬防疫廠』全1冊 (19年11月刊行予定)

西山勝夫 (滋賀医科大学名誉教授)

十五年戦争と日本の医学医療などに参加する有志と共に、かつての戦争における医学者・医師、医学界・医療界の戦争加担の検証を進めてきた。国立公文書館が『留守名簿 関東軍防疫給水部』を保管しているのを二〇一四年に見つけた。

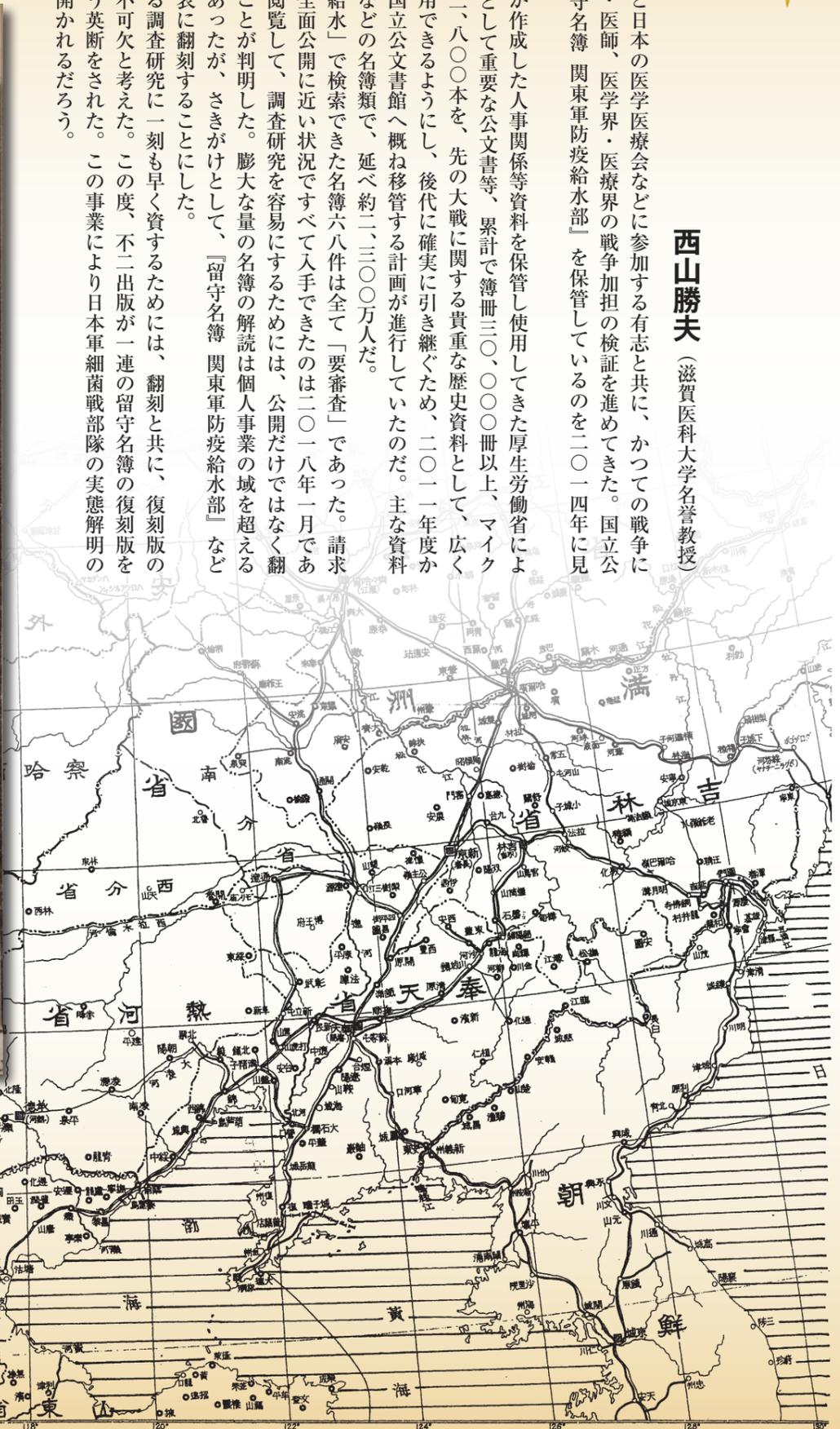
日本軍などが作成した人事関係等資料を保管し使用してきた厚生労働省により、歴史資料として重要な公文書等、累計で簿冊三〇、〇〇〇冊以上、マイクロフィルム約二、八〇〇本を、先の大戦に関する貴重な歴史資料として、広く研究者等が利用できるようにし、後代に確実に引き継ぐため、二〇一一年度から五年間で、国立公文書館へ概ね移管する計画が進行していたのだ。主な資料は、留守名簿などの名簿類で、延べ約二、三〇〇万人だ。

当時「防疫給水」で検索できた名簿六八件は全て「要審査」であった。請求の結果、ほぼ全面公開に近い状況ですべて入手できたのは二〇一八年一月であった。実物を閲覧して、調査研究を容易にするためには、公開だけではなく翻刻が不可欠なことが判明した。膨大な量の名簿の解読は個人事業の域を超えるのは明らかであったが、さきがけとして、「留守名簿 関東軍防疫給水部」などから漸次一覧表に翻刻することにした。

関係者による調査研究に一刻も早く資するためには、翻刻と共に、復刻版の早期の刊行が不可欠と考えた。この度、不二出版が一連の留守名簿の復刻版を刊行するという英断をされた。この事業により日本軍細菌戦部隊の実態解明の新たな地平が開かれるだろう。

内容見本

留守名簿 (Table with columns: 編入年月日, 前所属及其, 本籍, 留地, 住, 留守担当者, 氏名, 生年月日, 宅留守補修, 徴集年, 役職, 給額, 氏名, 生年月日, 宅留守補修)



※見本は『留守名簿 北支那防疫給水部』より。

筆者が防疫給水部隊のすべてを閲覧することにしたのは (……) 医学・医療分野におけるかつての戦争での加担、責任、(過ちを) 二度と繰り返さない道筋の解明に資するということにあった。 — 西山勝夫 (本書「解説」より)

『留守名簿』による、ある部隊の全隊員の実名公表と解明は、日本軍細菌戦部隊の存在を証する確実な証拠であるにとどまらず、一人一人の隊員の動態から個票データベースの構築を助け、かつての戦争と戦後の史実の新たな発掘という喫緊の課題を進展させることとなるであろう。

【本書の構成】

本書は、『留守名簿』復刻、西山勝夫による解説 (『留守名簿 関東軍防疫給水部』からみえる関東軍防疫給水部の構成の概要) 『留守名簿 関東軍防疫給水部』の公開をめぐる)、そしてあらたに作成した「将校らの兵種別氏名別兵歴」の3部からなる。

今回刊行の『留守名簿 関東軍防疫給水部』全2冊では、満洲第六五九部隊の名簿を復刻。『十五年戦争陸軍留守名簿資料集』は、さらに今後、満洲第六五九部隊復七 (『関東軍防疫給水部復七』)、甲第一八五五部隊 (『北支那防疫給水部』)、岡第九四二〇部隊 (『南方軍防疫給水部』)、そして満洲第一〇〇部隊 (『関東軍軍馬防疫廠』) を順次刊行する予定である。

【留守名簿とは…】

戦地や外地にある部隊に属する陸軍軍人・軍属に関する記録。家族等に対する恩給、年金その他の支給の掌握に使用される。

その記載項目は、編入年月日/前所属及び編入年月日/本籍/留守担当者の住所・続柄・氏名/徴集年/任官年/役種兵種官等/給額俸月給額等からなる。本簿はアイウエオ順に構成。

■本『留守名簿 関東軍防疫給水部』には「行方不明者」とした手書きの表も添付。「伊藤邦之助少佐」が昭和19年にサイパンに出動とあるが詳細は不明。



留守名簿 (Table with columns: 編入年月日, 前所属及其, 本籍, 留地, 住, 留守担当者, 氏名, 生年月日, 宅留守補修, 徴集年, 役職, 給額, 氏名, 生年月日, 宅留守補修)